

令和2年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、(1)知性の向上、(2)品性の向上、(3)信頼される学校づくりの3つの観点から重点目標を設定し、学校経営に係る課題に取り組んだ。

- (1) 知性の向上に関しては、生徒の家庭学習時間調査と指導、及び教員の授業改善の両面から取り組んだ。前者は、学習の基礎・基本の定着及び生徒個々の主体的な学習態度の育成を目指した。後者は、教員がそれぞれの教科で「主体的・対話的で深い学び」の実践と ICT 機器を活用した学習指導の向上を図った。

この結果、前者では、教科や学科が行う小テストや資格検定指導等が生徒の達成感や自信に繋がるという点で有効ではあるが、断片的な知識の詰め込みでは持続的な効果を生まない反省点もある。また、授業アンケートによると、生徒は授業を概ねわかりやすいと感じる一方で、達成感を得る割合は低い結果であった。短期記憶の詰め込み型学習から思考力を磨く学習意識の改善は、今後も問い続けねばならない課題であると実感した。

後者では、今年度「ICT 教育推進事業校」として、教員の教育クラウド利用研修会を実施したりオンラインでの授業機会を持ったりした。また、互研授業週間では、ICT 機器を活用した研究授業を実施し、研究授業の参観や事後研修会の実施によってすべての教員間で授業展開の研究を進めた。

- (2) 品性の向上に関しては、「安心して過ごせる氷見高校社会」の視点で、生徒と個々の面談及び全校集会等の機会をとらえて本校生徒としての所属意識と矜持を意識化し、社会規範を遵守する心の育成と自律的態度の向上を目指した。今年度はコロナ禍の中、学校行事や課外活動、各種大会等の中止・縮小の中でも生徒の主体的な参加を促す運営を行うことで生徒の満足度を得ることができた。主体的な活動の中で自己有用感を高め、本校への所属意識を高めた結果が高い満足度に繋がったと考える。また、ルール、マナーに関する生徒の意識調査では、昨年度同様高いレベルの結果となっている。
- (3) 信頼される学校づくりに関しては、家庭や地域とのより良い連携の推進を目指した。家庭については、「氷高ほっとメール」(教育情報メール)への登録数はさらに増加し連絡体制が良化している。また今年度はコロナ禍における学校生活や進路等の不安からか保護者のPTA研修会への参加数が各学年で増加した。また、1年次の「未来講座HIMI学」においては、氷見を中心とするフィールドワークを取り入れ、身近な地域課題を学びのフィールドとして、物事を探究する姿勢や学ぶ力の育成に取り組んだ。各学科の課題研究やボランティア活動等においても地域との連携を深めた。

7 次年度へ向けての課題と方策

通常授業で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、校内研修に加えて市内中学校と連携した研修会や外部講師招聘を通し、ICT 機器を活用した授業やアクティブラーニング等に関する研修の機会を拡充することで、授業改善と教員の指導力向上を図っていきたい。また、多くの活動の場面において、生徒が学びの記録の蓄積と他者評価を実施し、他者との関わりの中で自分の言動を反省して、自己理解と自己有用感の涵養に努めさせたい。そのことで、本校生徒の所属意識と矜持をより一層高めていきたいと考える。

さらに、「地域との協働による教育」では、次年度は2つの学年での展開になり、指導の充実とマネジメントが課題となる。新学習指導要領で求められる課題解決型の学びとなるよう工夫して実践することで、本校の教育活動に関心を抱いてもらうことが必要である。

(様式5)

8 学校アクションプラン

| 令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 1 - | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|---|---------------------|---|------------|----------|-----|-----|--|------|--|----|------------|------------|------------|------------|--------------|--|--|--|--|----------|--------|----|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|----|----|
| 重点項目 | 学習活動（向学心および問題解決に向けてIT機器を積極的に利用する態度を育成する） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 重点課題 | 授業及び家庭学習へ意欲の醸成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現 状 | <p>本校では、1学期と2学期の期末考査に向けての学習時間調査を全学科の生徒を対象に実施している。過去3年間の結果を下表に示す。昨年度の結果は2年前よりは良いものの、前年と比べるとやや悪い状況であった。今年度もこの調査を実施し、学習時間の実態を把握する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">学 科</th> <th colspan="2">普通科</th> <th colspan="2">専門学科</th> <th rowspan="2">平均</th> </tr> <tr> <th>平日2時間以上(%)</th> <th>休日3時間以上(%)</th> <th>平日2時間以上(%)</th> <th>休日3時間以上(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2学期末考査期間学習時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>平日・休日(%)</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>60</td> <td>55</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>73</td> <td>73</td> <td>40</td> <td>34</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>68</td> <td>64</td> <td>36</td> <td>25</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、今年度の学校重点目標には、昨年来導入されたスクリーンやタブレットを活用したICT教育を推進することが挙げられている。これらの機器を利用した授業を推奨し、生徒がより主体的に参加できる授業を目指したい。また、スマートフォンやタブレット端末、コンピュータを学習やアンケートに利用する試みを生徒、教職員で実施したい。</p> <p>専門学科では、教科の学習に加え、各種検定の取得を重視するような指導を行ってきた。その評価指標として、昨年は農業科学科の検定取得平均8.1種目、海洋科学科の食品技能検定I類および水産海洋技術検定合格率55%、ビジネス科は全商検定1級合格のべ98名、生活福祉科、家庭科技術検定合格者のべ50名であり、前年比との比較は学科によって様々であった。今年度は昨年度の結果を目標として、積極的に検定に挑戦させたい。</p> | | | | | 学 科 | 普通科 | | 専門学科 | | 平均 | 平日2時間以上(%) | 休日3時間以上(%) | 平日2時間以上(%) | 休日3時間以上(%) | 2学期末考査期間学習時間 | | | | | 平日・休日(%) | 平成29年度 | 60 | 55 | 16 | 19 | 38 | 平成30年度 | 73 | 73 | 40 | 34 | 55 | 令和元年度 | 68 | 64 | 36 | 25 | 48 |
| 学 科 | 普通科 | | 専門学科 | | 平均 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 平日2時間以上(%) | 休日3時間以上(%) | 平日2時間以上(%) | 休日3時間以上(%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2学期末考査期間学習時間 | | | | | 平日・休日(%) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平成29年度 | 60 | 55 | 16 | 19 | 38 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平成30年度 | 73 | 73 | 40 | 34 | 55 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和元年度 | 68 | 64 | 36 | 25 | 48 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 達成目標 | ① 定期考査における家庭学習の時間、平日2時間以上、休日3時間以上、普通科70%、専門学科40%以上。 | | ③ 専門学科検定合格状況 (農)卒業時に取得検定平均7種目以上 (海)食品技能検定第I類、水産海洋技術検定の合格者60%以上 (ビ)卒業時、全商検定1級合格100件以上 (生)家庭科技術検定1級合格者50名以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査や面接等で生徒の実態把握に努め、将来の進路目標に対し適切なアドバイスを与えるとともに、学習意欲を向上させる。 小テストへの取り組み等日々の学習成果の積み上げを重ね、学習習慣の定着を図る。 | | <ul style="list-style-type: none"> タブレットの機能やクラウドサービスを利用して、タブレットやスマートフォンを用いて回答する形でアンケート調査を実施したり、課題をやりとりしたりすることで学習への利用を推進する。 学び合いの機会を適切に計画して、技能を確実に定着させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 達成度 | ① 普通科平日2時間以上81%、休日3時間以上80% 専門学科平日2時間以上52%、休日3時間以上53% | | ③ (農)平均8.1種目 (海)食品技能検定80%、水産海洋技術検定60% (ビ)125件 (生)53名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査期間中には、学習時間の記録用紙を配付し、毎日の記録をとらせた。 定期考査期間以外にも、9月に一度学習時間を調査し、結果を職員で共有した。 ICT教育を推進する意味で、調査についてはスマートフォンを利用したオンラインで実施した。 | | <ul style="list-style-type: none"> ホームルームやキャリアデザイン等の時間を通して、進路目標定める過程で、検定を取得する意義について、具体的に理解させた。 知識や技能の定着が不十分な生徒には、個別指導や学び合いの機会を持つために、補講を適時設定して実施した。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評 価 | ① A (目標達成) | ② B 昨年比 平日:横ばい 休日:減 | ③ A (目標達成) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校関係者の意見 | アンケート調査や学習へのICT機器の利用については今後も継続して実施してほしい。また、教員が授業でどのように活用していくかの実践・研究が今後の課題である。 | | 検定を取得する意義について、具体的に理解させることができている。頑張った氷見高の姿が見えてよい。検定についての学習は、生徒にとって意味のある取り組みとなっており、今後も継続してほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 次年度へ向けての課題 | 本年度のアンケート調査については、ICT推進の立場からオンラインで実施した。今後一人一台のタブレット端末の配置に合わせ、業務の効率化をはかっていきたい。生徒が自ら学びを深めたいと思うよう、授業改善にも役立てる方策を推進したい。 | | 今年度も、生徒同士の学び合いを指導に取り入れ、放課後や休日にオンラインでの指導をする等、熱心な指導があった。本校専門学科生徒の学びの成果として検定合格への挑戦を続けていきたい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : あまり達成しなかった D : 達成しなかった)

令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 1 -

| | | |
|------------|---|---|
| 重点項目 | 学習活動（教科実践 教員の活動） | |
| 重点課題 | ICT活用による学習・生活指導力の向上と地域協働による学びの魅力化 | |
| 現 状 | <p>【ICT活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大予防による臨時休校に伴い、教育クラウド利用が急速に進んだ。本校はG suite for educationをプラットフォームとして、5月中旬から運用を始めた。オンラインによる授業等、従来とは異なるツールで指導ができるよう教員のICTリテラシー向上が急務である。 ・タブレット端末(42台)と普通教室等にタブレット用のWi-Fiアンテナが整備された。本校周辺は携帯電話の電波が弱く、学校タブレット以外のWi-Fi環境は未整備である。また、教員の執務用パソコンではG suiteへのアクセスが制限されている。 <p>【地域協働による学びについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校と氷見市の連携協力に関する包括協定(令和2年3月)」等に基づき、委員会を組織して研究をする。未来講座HIMI学は、フィールドワーク等を取り入れた少人数講座などを実施してきた。しかし、担当者が氷見市との縁を持っていない場合は、積極的なプログラムの用意できない等の課題もある。また、普通科において1学年の地域学習によって身につけた力を上級学年で伸ばし、新学習指導要領で求められる課題解決型の学びとするには、工夫が必要となっている。 | |
| 達成目標 | <p>① すべての授業担当者が、主体的に教育クラウドを利用し、オンライン授業やWebテスト等による指導ができる。</p> <p>② 通常授業で「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、ICTを活用する方法を教員が研究し実践する。(研究・実践した教員割合7割以上)</p> <p>③ 「地域との協働による教育推進」として、未来講座HIMI学での外部講師・支援員との連携活動をのべ180回(12講座各15回)実施する。</p> <p>④ 「地域との協働による教育」を、特に普通科2学年以降の主体的な課題研究型学習に発展させる方策を組織的に構築する。このために「総合的な探究の時間運営推進委員会」を、小委員会を含め5回程度開催する。</p> | |
| 方 策 | <p>①教員の教育クラウド利用研修会を実施する。オンラインでの授業機会をもつ。</p> <p>②互研授業週間にICTを活用した研究授業を計画し、研究授業の参観によってすべての教員間で授業展開の研究を進める。</p> <p>③氷見市を窓口として、未来講座HIMI学および地域学習全体に地域学習支援員(氷見市地域おこし協力隊)等の外部人材の協力を得る。</p> <p>④「総合的な探究の時間運営推進委員会」のプロジェクトチームで、普通科2学年以降の「総合的な探究の時間」の計画をまとめ、次年度本格的に進められるよう準備する。</p> | |
| 達成度 | ①ICT校内研修会参加率61%(常勤の教員52名中32名)。オンライン授業実施。 | ②ICT研究授業参観率57%(常勤の教員等49人中28人) |
| | ③「未来講座HIMI学」講座関係の外部人材62名。フィールドワーク他、外部人材との連携等による授業17回。 | ④文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」事業特例校の指定(6月)を受け、状況が変化した。 |
| 具体的な取組状況 | ①「ICT教育推進事業」教員研修会(11月30日)。夏期補習でのオンライン授業の実施(8月中旬)。 | ②互研授業週間のICT活用研究事業の実施と講評会の実施。 |
| | ③1学年全員が、地域で活動したり、話を聞いたりする機会を持った。 | ④事業特例校指定により、1年「総合的な探究の時間」は「産業社会と人間」となった。 |
| 評 価 | ① B ほぼ達成した。 | ② C あまり達成できなかった。 |
| | ③ A 達成した。 | ④ — ※情勢変化により評価なし |
| 学校関係者の意見 | 通常授業で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、次年度もICTを活用する方法を研究し、実践することで教員のスキルアップを図ってほしい。また、「地域との協働による教育推進」における「未来講座HIMI学」では、多くの外部講師の方の協力により充実した学習が実践されており次年度も期待したい。 | |
| 次年度へ向けての課題 | 次年度前半には、生徒一人一台タブレット端末の配備が予定されている。ICT活用は社会的要請であり、教員のICTスキル向上の取り組みを進める必要がある。「地域との協働による教育」は、2つの学年での展開になり、指導の充実とマネジメントが課題である。 | |

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : あまり達成しなかった D : 達成しなかった)

令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 2 -

| | | | |
|------------|--|---|--|
| 重点項目 | 学校生活（心身ともに健康で充実した高校生活） | | |
| 重点課題 | 「誇りに思える氷見高校社会」「安心して過ごせる氷見高校社会」の構築に向けての社会観の育成 | | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> さわやかな挨拶を交し合える学校を目指し、定期的に「あいさつ運動」を行っているが、挨拶の価値を心から意識して行う生徒はまだ少ない。また、制服の着こなしやJR等公共交通機関の乗降時や車内におけるマナーに関しても、一部には意識の低い生徒が見られる。「誇りに思える氷見高校社会」を創造することで、自己有用感を持って学校生活を送ることができるようにする必要がある。 人間関係における不安や悩みは、常に注視すべきことである。「安心して過ごせる氷見高校社会」を生徒と一体となって創造するという視点で、向上に邁進する学校生活を安定して送ることができるようにする必要がある。 ペットボトル、空き缶、空き瓶と、可燃ゴミの分別が徹底していない。また、飲み残しがあるまま容器が出されていることもある。分別のルールを守り、その大切さを理解させ、分別が徹底されるように生徒一人ひとりの意識を高める必要がある。 | | |
| 達成目標 | ① 挨拶・服装・交通マナー・乗車マナー等の規範意識の向上 生徒意識調査における挨拶や服装等に係る意識率 95%以上 | ② いじめ撲滅等、「安心して過ごせる氷見高校社会」に関する意識の向上 生徒意識調査における「安心して過ごせる氷見高校社会」の創造に対する意識率 100% | ③ ゴミの分別徹底の意識率の向上 生徒意識調査におけるゴミの分別に係る意識率 95%以上 |
| 方 策 | ① 「誇りに思える氷見高校社会」をキーワードに、県下一斉による年1回の「さわやか運動」、本校独自による各学期初めの「さわやかウィーク」や年6回の「さわやかデイ」の取り組みにおいて、挨拶の意義を事前指導し、挨拶の価値を意識させながら実施する。また、校風委員会及び交通委員会等の委員会活動として取り組ませることで、生徒の主体性に基づき、「挨拶の励行」「交通安全（自転車乗車マナー等）」「JR等公共交通機関の乗車および乗降時のマナー」など社会的マナーの向上に努める。 ② 「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードと集、様々な活動を展開する。具体的には、生徒会等で「命の尊重」を訴えるとともに、学期ごとを基本にアンケートを実施することで、人間関係に関する悩みや問題行動を早期に把握する。さらに、得た情報をもとに、迅速かつ周到に対応する体制を構築する。 | ③ 年間5回のクリーンアップデイでゴミの分別を重点項目に取り上げ、生徒の意識を喚起する。定期的に保健委員会が教室内のゴミの分別を全校生徒に呼びかける。分別方法をわかりやすく図示したフローチャート（掲示物）を作成し、各クラスに掲示して知らせる。分別の悪い場所（体育館、各職員室、部活動）に対して、ゴミ箱の工夫や担当の先生方への説明など、具体的に個別の対策を立てる。 | |
| 達 成 度 | ① 社会規範の重要性を意識している生徒の割合 94.9% | ② 安心して過ごせる氷見高校社会の創造を意識して生活している生徒の割合 93.9% | ③ 「校内でゴミを分別している」と回答した生徒の割合 98% |
| 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ① 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県下一斉での「高校生さわやか運動」は中止となったが、校内で月の初めに「氷高さわやかデイ」を実施した。 ② いじめや類する行動について生徒を注意深く観察するとともに、定期的に全体指導といじめ等の被害に対するアンケートを実施し、職員間の連携と情報共有をはかりつつ、きめ細かな指導を実施した。 | | |
| 評 価 | ① B 校外での挨拶・服装等の社会規範に対する生徒の意識は概ね良好である。 | ② B いじめやそれに類する行為には、学校全体の協力体制のもと対応できている。 | ③ A 毎日の分別状況は概ね良好である。 |
| 学校関係者の意見 | 生徒集会等において「安心・安全な氷見高校」であることの重要性を話し、安心して過ごせる学校となっている。また、多くの生徒が氷見高校社会の一員であることを自覚し、社会規範に対する生徒の意識は概ね良好である。 | | |
| 次年度へ向けての課題 | ① 社会規範の遵守に加え、氷見高校生の矜持をもって主体的に行動する心の啓蒙の在り方を検討する。 ② 生徒が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、いじめの防止等の対策を研究する。 | ③ コロナ禍でのゴミの収集・分別指導において、生徒や職員の安全に今後も配慮が必要である。 | |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 3 -

| | | |
|------------|---|--|
| 重点項目 | 進路支援（進路支援力の向上） | |
| 重点課題 | 進路目標の早期設定と進路意識向上への方策の推進 | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力や適性を掴みきれていないこと、職業や上級学校についての理解不足、進路決定の方策（入学試験、就職試験など）に対する基礎的、基本的な知識の不足のため、進路意識が高まらない実態が各学年で見受けられる。 ・全学年で進路意識及び学習意欲を高めて、計画的に受験準備に当たらせるために、「進路学習」と「面接」の充実が必要である。また、保護者への進路情報の啓蒙にも力点を置く必要がある。 ・進路をより幅広い選択肢の中から選択できる可能性を持たせるために、基本的学習習慣の確立に向けて、進路指導部と各学年、各教科、各部との連携をより密にする必要がある。 ・大学入学共通テスト等の進路情報を共有できるよう、より系統的で効率的な進路指導の仕組みが求められる。また、これまで蓄積した進路指導のノウハウを蓄積できる体制の充実を図る必要がある。 | |
| 達成目標 | ① 1, 2年進路ホームルーム(年3回)、各学年保護者会（進路情報）の充実 ・生徒全体の進路ホームルームに対する満足度、及び学年保護者会での進路情報に対する満足度 80%以上 | ② 進路関連行事「個人面接」「進路講話」「卒業生に聞く」等の充実 ・生徒全体の個人面接の満足度 70%以上 |
| | ③ 進路希望の実現（第3学年 進学希望者） ・3年9月進路希望調査(校種)に対し 普通科：第一志望達成率 50% 専門学科：第一志望達成率 75% | ④ 進路希望の実現（第3学年 就職希望者） ・就職希望者の就職内定率 100% |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ・段階的にキャリア学習の機会を設けるなど、各学年に応じた計画的な進路指導を行うことで、早期に自己の適性の理解及び将来設計を具体化させ、意欲的に学習ができるように指導する。 ・進路に関するホームルームの指導内容や指導法について精選・検討し、より効果的な系統指導プログラムを作成して、学年全体での指導体制の共有化を図る。進路統一ホームルームを年3回程度実施し、個人面接にも活用できるように工夫する。 ・進路に関する行事の内容を吟味し、現行の取り組みに対して改善点を活かすように進路行事を企画する。 ・各学年と連携し、3年間を見通した進路指導を行う。 1年次…「進路講話」「職業人から学ぶ」「文理選択」「進路ガイダンス」「卒業生と語る会」他 2年次…「大学等見学」「修学旅行（班別研修）」「学部学科の研究」「卒業生と語る会」「インターンシップ」他 3年次…「進路ガイダンス」「オープンキャンパス」「就職説明会」「企業見学」「進学検討会」他 ・必要な進路情報について校内ネットワークを利用して教員間で共有し、生徒に還元できるようにする。また、受験情報や指導方法等についても定期的に情報交換に努める。 ・生徒自身が進路に関する個人記録を蓄積し、自分の進路経歴を理解することで、進路決定に活用できるように指導する。 | |
| 達成度 | ① コロナ禍のため、進路ホームルームの回数は減ったが、実施分は概ね好評を得た。保護者アンケート(12月)「進路指導が適切に行われている」1年 93% 2年 98% 3年 97% | ② 進路に対する「個人面接」はよく行われている。生徒アンケート(12月)「進路についての指導・面談がよく行われている」1年 88% 2年 95% 3年 91% 「卒業生と語る会」の満足度は約 95%。 |
| | ③ 第一志望達成率（校種） 普通科約90% 専門学科ほぼ100% | ④ 就職希望者44名が内定。 |
| 具体的な取組状況 | ① 進路に関するホームルームを1, 2学年でそれぞれ実施し、進路意識を高めた。進路と学年で協議し、それぞれの時期に必要な進路プログラムを検討した。1学期保護者会の時に、保護者も参加できるオンラインによる学校別説明会を実施した。 | ② 「個人面接」は各担任で実施。「進路講話」「大学等見学」はコロナ禍のため実施できなかったが、「職業人から学ぶ」や「進路ガイダンス」は学年、進路指導部で講師や校種の選定などを行い、より効果が上がるよう努めた。 |
| | ③ 推薦入試では、全教職員の協力を得て小論文・面接等の指導割り当てを行い、成果をあげた。 | ④ 就職希望者に対して、個々人の志望と特性に基づき、きめ細かな指導を行った。その結果、大部分の就職希望者は第一希望の企業に内定を得ることができた。 |
| 評 価 | ① B ③ A | ② A ④ B |
| 学校関係者の意見 | 今年度はコロナ禍のため、1学期実施予定の進路行事がほぼ実施できなかったが、そのような中、夏休み前にオンラインによる学校説明会を実施するなどの工夫が見られた。また、学習においては大きな遅れはなく、受験に対する不安はほとんどなかったことは大変良かった。就職希望者においては、コロナ禍で求人数が減り、就職試験も1ヶ月遅くなったことなど不安の中で就職指導だったと思うが、十分な時間と対策を取り、多くの生徒が第一希望の企業への採用を果たすことができています。氷見高の勢いを増していると感じる結果だ。 | |
| 次年度へ向けての課題 | 本校が長年培ってきた教科指導をはじめ、面接指導や小論文指導、また専門学科でのキャリア教育などが成果を挙げる大きな力となっている。今年度初めて実施した保護者向けの進路ガイダンスについてよりよい実施方法を検討しながら、進路情報の提供と共有を図りたい。 大学入学共通テストが初めて実施されたが、まだ大学入試改革は続いており、引き続き情報収集に努めるとともに、キャリアパスポートの実施などにより個人記録の蓄積を進めていきたい。 生徒たちが主体的に進路情報を獲得しようとする態度を育成し、進路に対するキャリアを深めていくことができるよう、より有効なホームルームを計画し、活用していきたい。 | |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 4 -

| | | | |
|--------------------|--|--|---|
| 重点項目 | 特別活動 | | |
| 重点課題 | 学校行事・部活動及び各主体による地域連携活動のさらなる活性化 | | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> 学校行事は、前年度の課題を参考にし、改善案も取り入れて生徒会執行部を中心に企画・運営を行っている。休校中の行事の削減、延期が求められる中で全校生徒の参加意識や達成感を高められるよう、生徒の意見を取り入れながら、生徒主体の行事にする必要がある。 部活動は、全校生徒の約90%が加入している。休校に伴う部活動中止、休養日週2日制の中、限られた時間を有効活用するために、明確な活動計画と集中した時間活用の工夫と3年生が前向きになれるような支援が求められる。 ボランティア推進委員会を中心に家庭クラブやJRC部等とも連携し、地域のボランティア活動に積極的に取り組んでいる。校内ではエコキャップやコンタクトレンズの空ケースの回収を行っている。 | | |
| 達成目標 | ① 各学校行事の精選と内容の充実 | ② 有意義、活躍する場として部活動に参加し満足感を得る | ③ ボランティア活動への参加意識の高揚 |
| | 各行事に対する生徒の満足度 80%以上 | 3学年生徒の満足度 80%以上 | ボランティア活動への参加 全生徒1回以上 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> ① 各行事の前に各種委員会の開催や生徒会便りの発行を行い、行事についての実施要項等を周知していく。また、行事後にアンケートを行うことで、生徒の達成感が高まるよう改善点を加え、次年度に活かすよう工夫する。 ② 部活動で人間性の向上を図ることの大切さを全校生徒に意識させつつ、メリハリのある取り組みを促す。3年生に、アンケートで部活動に対する意識調査を行い、各部顧問に知らせ、前向きになれるよう支援活動に生かす。 ③ ボランティア推進委員会を中心にポスターの掲示や放送などを通し、全校生徒にボランティア活動への積極的な参加を呼びかける。 | | |
| 達 成 度 | ① 各行事に対する満足度 体育大会66% 氷高祭69% (不満は9%、10%) | | ③他団体との活動10人、 地域の美化活動62人 エコキャップ・コンタクトレンズ ケースの回収、募金活動、書き損 じはがきの回収は実施。 |
| | ② 部活動に対する満足度(3年対象) 85% | | |
| 具体的な 取組状況 | 体育大会では、生徒会執行部が主導し、ソーシャルディスタンスを考慮した競技ルールの見直しを積極的に行い、公平かつ円滑な運営ができるよう図った。また、氷高祭でも生徒会執行部を中心にコロナ禍でも取り組める企画・運営を行った。部活動では、多彩な部活動を運営できるよう顧問の配置、予算運用等適正に対応した。 | | |
| 評 価 | ① C コロナ禍で行事が縮小されたため、生徒の満足度は高くなかった。 | ③ D 延べ人数の目標達成及び、活動を振り返る機会を持つことができなかった。 | |
| | ② A 引退した生徒の満足度は高い。 | | |
| 学校関係 者の意見 | コロナ禍において規模を縮小し、様々な対策を実施しての学校行事であったが、企画から運営まで生徒の主体性を大切にして実施することができた。しかし、部活動においては、大会等が中止になるなど生徒たちを満足させる活動にはならなかったようである。ボランティア活動においては、清掃活動のみならず、地域に対する貢献のあり方を模索する機会としてほしい。 | | |
| 次年度へ 向けての 課題 | <ul style="list-style-type: none"> 各行事の事後アンケートから改善点を見つけ、より多くの生徒が自主的、積極的に学校行事に参加できるよう企画や運営方法を工夫する。 より多くの生徒が部活動に熱心に参加することで、いろいろな経験を積み、充実した学校生活を送れるよう援助する。 身近で今できるボランティア活動に参加する生徒を増やす。ボランティア後の記録や感想を残すなど振り返りの機会を設け、他の生徒への動機付けとなるよう工夫する。 | | |

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : あまり達成しなかった D : 達成しなかった)

令和2年度 氷見高等学校アクションプラン - 5 -

| 重点項目 | その他（情報発信及び家庭との連携） | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--|---|-----|------|------|----|-------|-------|----|-------|-------|----|-------|-------|----|-------|-------|
| 重点課題 | 適切な情報発信及び保護者との情報共有の推進 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現 状 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携を図るために、PTA活動への積極的な参加を呼びかけている。PTA総会への参加保護者は、平成28年に総会後の学年懇談会を実施して以来増えており、平成29年度の保護者の参加率は、38%（6年前の2.17倍）、平成30年度は38.5%、令和元年度は34.2%（昨年より4.3%減）であった。進路に関するPTA研修会（第3学年）への保護者の参加率は令和元年度60.7%（一昨年より10.7%減）。 学校と保護者との情報共有手段として、「氷高ほっとメール」（教育情報メール）の登録を毎年保護者に呼びかけている。保護者の「氷高ほっとメール」に対する理解は深まり、登録率も増加傾向にある。昨年度は91.7%であった。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 達成目標 | ① PTA活動への保護者の参加率の向上 <ul style="list-style-type: none"> PTA総会への保護者参加率40%以上 進路に関するPTA研修会への保護者の参加率80%以上(第3学年) | ② 教育情報メール「氷高ほっとメール」の保護者登録率の向上 <ul style="list-style-type: none"> 93%以上 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者に関心が高いと思われる企画や情報を用意することで、総会や研修会・学年懇談会に参加したいという気持ちを持ってもらえるように工夫する。 行事の開催案内の配布、ホームページ、メールでの情報配信を行うことで、PTA活動への参加を促す。 | <ul style="list-style-type: none"> 入学前の合格者説明会やPTA総会等の機会をとらえ、「氷高ほっとメール」の利用価値が大きいことをしっかり伝え、保護者の登録を促す。 入学以降は、特に1学期を登録推進期間として引き続き保護者に登録を勧める。 全体への一斉メール以外に、試験成績の配布日の告知等、学年や学科に特化した必要な情報も配信することで、利用価値を高める。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 達 成 度 | ① - ※PTA総会は中止 ・ 80.5% | ② 95.3% | | | | | | | | | | | | | | | |
| 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> 5月16日開催予定のPTA総会、学年懇談会はコロナ禍のため中止となった。 3年普通科のPTA研修会は6月27日に開催。参加者は95名、80.5%。昨年の69.6%と比較して10.9ポイントの増。 3年専門学科PTA研修会は、6月13日に延期開催となった。参加者は95名、80.5%。昨年の47.8%と比較して、31.7ポイント増。3年普通科のPTA研修会は6月27日に開催。参加者は95名、80.5%。昨年の69.6%と比較して10.9ポイントの増。 | <ul style="list-style-type: none"> 入学説明会と入学式当日、新入生の保護者に登録をお願いした。 1学期の保護者会で利用状況のアンケートを実施し、意識調査とともに必要性をアピールした。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>登録率</th> <th>R1年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>91.7%</td> <td>95.3%</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>92.1%</td> <td>97.4%</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>93.2%</td> <td>93.7%</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>90.1%</td> <td>94.9%</td> </tr> </tbody> </table> | 登録率 | R1年度 | R2年度 | 全体 | 91.7% | 95.3% | 1年 | 92.1% | 97.4% | 2年 | 93.2% | 93.7% | 3年 | 90.1% | 94.9% |
| 登録率 | R1年度 | R2年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全体 | 91.7% | 95.3% | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年 | 92.1% | 97.4% | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年 | 93.2% | 93.7% | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3年 | 90.1% | 94.9% | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評 価 | C | A | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校関係者の意見 | <ul style="list-style-type: none"> 5月の総会が開催されなかったことで、コロナ禍の休校、行事変更等の不安からか、学年、学科別の研修会への興味関心が強くなり、参加率が上昇したと考えられる。 コロナ禍の不安からかPTA研修会や保護者会への参加者が増加したことから、会の必要感が高いと思われる。今後も学年便り等に案内を入れるなど、継続的なPR活動に努めてほしい。 | <ul style="list-style-type: none"> 年々登録率が上がり、95%前後で安定してきた。本年度から本校HPからも登録できるように変更したことで、特に1年生の登録率が上昇した。 アンケートによると「ほっとメール」に満足している保護者は95%であるが、配信が少ない、遅いなどの意見も見られた。今後は、毎月の学校行事等の情報を定期的に配信してほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> ウィズコロナの時代における会合の持ち方、リモートの利用等、工夫を凝らす必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 登録者のうち、一斉メールの受信拒否による不着が数件ある。生徒を通じて許可設定をお願いしているが、なかなか改善されない現状がある。 | | | | | | | | | | | | | | | |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)